



豊後大野市教育委員会

会 議 要 録
---------

会議名：平成 29 年度 第 2 回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会

日 時：平成 29 年 10 月 13 日（金）18：00～19：47

場 所：豊後大野市中央公民館第一会議室

欠席者：なし

### 1. 開 会

社会教育課長	皆さんこんばんは。第 2 回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会に全員出席ということでありがとうございます。特に今は農繁期ということで大変お忙しい中、また夜分遅くにありがとうございます。では、会を進めさせていただきたいと思います。第 1 回目の検討委員会について確認をさせていただきます。担当の小野が説明申し上げます。
事務局	皆さん、こんばんは。前回第 1 回検討委員会を開催させていただきましたが、まず前回のおさらいをして、それから議事の方に入りたいと思います。前回新たに 6 人の委員さんをお迎えして委嘱状の交付をさせていただきました。そして、自己紹介をしていただきました。次に事務局から概要の説明、これまでの経緯と今後のおおまかなスケジュールを説明しました。その後委員の皆さんからご意見をいただきました。大きく言うと 5 点程ありました。まず、第 1 点目は図書館及び資料館等の建設については自治委員会の中においては時期早々ではないか、説明が足りないのではないかとのご意見をいただきました。さらに、市民説明会も 7 ヶ所全てとは言わないが三重町以外でも行った方が良かったのではないかと、また、広報にもっと力を入れた方がよいのではないかとのご意見をいただきました。事務局としては、これは提案ですが、次回第 3 回検討委員会の様子を、ケーブルテレビの取材を受けてこういった委員会を行っていますよと、また委員長の方からこの検討委員会の主旨を説明いただき今後どのように考えているのかというところまでをおっしゃっていただくと、市民の皆様にお示しすることができ

	<p>るのではないかと考えました。さらに、12月の2日、3日に市内3か所において市民参加型のワークショップを開催したいと考えています。先程の2点についてはこれで対応したいと考えています。次に、資料館建設を望む4団体の意見を聴取したり、読み読みの団体など小さな団体も一緒になって考えてもらう機会を作ってはどうかという意見もいただきました。これも市民ワークショップにおいて御意見をいただけたらと思っておりますが、スケジュール的に余裕がない中においても可能な限り対応ができるよう今後検討していきたいと考えています。次に4番目、ランニングコストによる財政の圧迫が心配されるのではないかとのご意見をいただきました。今回の議事の中で新しい図書館や資料館が持つ機能と配置、平面図を通してちょっと議論させて頂こうかと思っておりますが、それらを考える上で当然イニシャルコストだけではなくて、ランニングコストも考えながら皆様のご意見を拝聴し検討していきたいと考えているので忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。最後は規模についてです。2,200㎡と400㎡合わせて2,600㎡ということで、若干答申の3,000㎡から減ったという形になりますが、その提案については概ねご理解いただいたと事務局としては解釈しています。ただ委員長より人口が増えた時に拡張スペースも考えた方がいいのではないかとのご意見もいただきました。限られた敷地ではありますが梓設計さんと十分協議した上で、これは、最初の検討委員会の中でも意見があったし、答申書の方にも盛り込まれましたが、『成長する図書館、資料館』を見据えて2,600㎡で検討していきたいと考えています。最後になりましたが、前回梓設計の山本さんの方から会社の説明、プロポーザルにおいての説明等いただいたところですが、委員の方より限られたスペースであるので隣接施設と共有できる部分があり、そのために図書館と資料館を運営する部分に影響がないか心配されるというご意見をいただきました。この点についても職員、設計会社と十分に詰めて配慮した形で限られた敷地の中で答申を形にしていきたいというふうに考えています。前回までのまとめは以上です。</p>
社会教育課長	<p>今小野から説明させていただきました。このまま進めさせていただいて良ければ、また議事の中でも関連ということでうけ賜りたいと思います。特に何もなければ、進めさせていただきます。</p>

	<p>それでは、議事に移るのでここからは渡部委員長にお願いしたい。よろしくお願いします。</p>
渡部委員長	<p>皆さん、こんばんは。お疲れ様です。今事務局から説明がありましたが、私の方で確認をさせていただいて議事に入らせていただきたい。前回、豊後高田市の基本計画書を資料としていただいたが、基本設計とか基本計画とか今は 4 つくらいのタイプがあって、一つは特定の業者さんが作って表紙だけ違うけど中身は地名と図書館名が違うだけでほとんど同じ様なケースが全国的に、私が知る限り何社かあって、私はいくつか関わっているからすぐ分かるがそういうパターンがある。それともう一つは市民と共同で、手作りで作る。それで、独断と偏見に満ちたものでないといけないから、全国的に世界的な視野から皆さんと共に作っていく計画書というものがある。その中間辺りのものになる。そういうようなものを考えると今までの議論を踏まえていくと設計者を選ぶ中でやっぱり地域に馴染んだ豊後大野市らしいものと普遍的な図書館の姿と今後あるべき図書館像を求めながら基本設計を作っていくということに今までの議論はなって来たんじゃないかということは前の（前回答申した際に参加していた）委員の方々も頭の中にあるんじゃないかということで、そうしたことを踏まえた議論を進めていくのが、今までの議論を踏まえた上での展開なので、そういったことで進めさせて行くということをご了解いただきたい。こんなことを言っているかどうか分からないが色々な選定に絡む時に業者さんがどれくらい豊後大野を愛しているかという視点があるかと思うが、私も全国的に何個かの図書館の会に参加してよく言われることが、業者さんは地域のことを全部知っているという自信を持っていると、しかしそれがどのくらいの頻度でその地を訪れているかとか、どれくらい文化的歴史的調査の上に立っているかという、そういう業者さんは全国に何十か所もやっているから、とてもじゃないけどそのロケーションにあった調査なんかできないというのが私の意見である。そうすると今日はお集まりの方々の英知を結集して計画の中に豊後大野らしいものを反映していくようなストーリーで今後進めさせていただきたいということをご了解願いたい。早速ですけど議事に移ります。</p> <p>（1）の新図書館等が持つ機能とその配置について事務局より説明をお願いします。</p>

事務局	<p>前回終わった後に、おそらく 2、3 日前に事前配布資料が届いたかと思います。豊後大野市図書館と書かれた A3 の横書きのもので。こちらと今回お手元にあります平面図（※別紙資料）を見ながらという形が一番良いかと思います。まず、詳しい話を梓設計さんにしていただきますが、その前にこの平面図は 3,000 m<sup>2</sup> で計画した時の図面なので、これを 2,600 m<sup>2</sup> にした時に BM を書庫はなくすとかトイレをなくすとかそういうふうにはなっていません。全体的に縮小される形で今のこの平面図での機能を残しながらも全体的な面積を減らすという形で考えています。出来た時にこの形と若干違うことがあるかもしれませんがそのあたりはご容赦いただきたいです。それでは、梓設計の石川さんにご説明していただきます。</p>
梓設計	<p>こんばんは。梓設計の石川と申します。よろしくお願ひします。事前配布の資料と今日お配りした資料と説明させていただきたい。まずは、A3 の事前配布した資料をご覧ください。表紙に豊後大野市立図書館本日の議題と書かれた資料があるかと思ひます。まず、一つ目は委員会の検討議題についてですが今後第 5 回まで検討委員会があり、その結果の中で進めていくことになるかと思ひますがその中で建築的に決めなきゃいけないことがそれぞれ委員会の中で出てくると思ひます。その内容を次のページにまとめさせてもらいました。第 1 回検討委員会は既に開催済で弊社の山本から当社のプロポーザル案を説明させていただいたかと思ひます。そして、第 2 回検討委員会が本日の議題となりますが、前回説明したプロポーザル提案へのご意見、本当はこんな図書館がいいなとかいうご要望だとか皆さんの意見を率直に聞かせていただきたいとそういう場にできたらいいなと思ひております。第 3 回、第 4 回については、そのいただいた条件を基に我々が再度そのプランをやきなおして、それを皆さまの前に出して、ブラッシュアップをはかっていきたいと考えています。それが、4 回まで終わった後に市民ワークショップを先程事務局の方がやりたいと言われていましたが、市内 3 か所で開催し、最後の検討委員会でまとめるという、そういう流れでこちらも調整していきたいと考えております。本日はそういったところで素案を持ってきました。次に本日お配りした平面図を説明させていただきます。プロポーザルに参加するにあたって我々は、皆さまが一生懸命考えて下さった答申書を丁寧に</p>

読み込んで案を作成してきました。今回プロポーザル案の中に赤文字で更に文字を追記してきていますが、赤文字が答申書の中にあった部屋で、それが、今回のプロポーザル案の中で特にそういった機能がどこに反映されるのか分かりやすく示してきました。簡単に概要を説明させていただくと、まず既存の図書館と新しく作る図書館資料館エリアの間に“文化のプロムナード”という通り道を作っています。このエリアは奥に体育館、その奥にはエイトピアがあり、文化の軸を図書館だけで完結させずに周囲に広げ文化の軸を作ろうという意図で文化のプロムナードというものを作っています。図書館については、公開収蔵庫として活用してもらった提案をさせていただいたが、今回新しくする常設展示室に保存する資料のバックアップとしての取扱を考えたらどうかなあというふうに考えています。新しい建物のほうでいくと風除室が文化のプロムナードの横にすぐあるが、そこを入っていただくとすぐに常設展示室があり、顔をのぞかせるといった構図になっております。常設展示室の機能としてはここにとどまることなく、オープンギャラリーといったスペースも活用しながら、状況に合わせて臨機応変に対応できるような空間にしたいと考えています。場合によっては、その前面に位置する多目的室を解放して使いながら一体的な展示ができる空間ということも計画しています。そこからずっと左に進むと、奥に図書館のコーナーですが、今回私共が提案した図書館というのは市民の皆さんのあらゆる方が利用される施設と思うので、みんなの居場所となるような図書館を作りたいと考えました。それで、今回大きく 3 つの空間に別れていますが、ポピュラーエリアという一般書架が置かれているようなエリア、ティーンズエリアと呼ばれる青年が使うようなエリア、最後に子どもエリアの 3 つの空間に別れているが、それぞれの空間をクラスターと言ってそれをふさぐような空間を作ってそれぞれ専用の場所をゆるやかに繋ぎながらも行けるような計画になっています。それぞれの空間に閲覧席が分散していてそれらをまとめる知識の回廊という真ん中の周遊空間があるとそういった構成になっています。中央に事務室があって別々の空間を見渡しやすい位置にカウンターを設けるとともにその裏には BM 書庫だったり、図書館の機能をバックアップするようになった構図となっています。一部二階があるが、事務室以外の階段、エ

	<p>レベーターを使って行くと閉架書庫にアプローチできるとそういった構成になっています。</p> <p>それで、先程の資料に一度戻っていただきなのですが、(※別紙資料) 諸元表というのがありますが、我々がプロポーザルの時に提案した時のある部屋を一覧表として抜き出したものになります。それぞれの空間がどれくらいの大きさがあるのかというのをまとめています。これらの空間というのは、我々が答申書から内容をひも解いてこんな空間が必要なのかなといったところで見させていただきましたが、我々が答申書を基に一方的に提案をしている段階ですので、本日皆様からの意見を聞きながらまた一から提案を作っていけたらと思っているところです。そこで、このプロポーザル案を見て皆さん様々なご意見があるかと思しますので、本当はこんな空間があったらいいとか率直なご意見をお聞かせ頂けたらと思います。その参考になるような資料というか、それを後段に付けていますが、既存の図書館、今世界に色んな図書館があるがその中でも特徴的な空間を参考イメージとしてまとめています。皆さんの中の理想の図書館像を考えるうえできっかけにして活用して頂ければと思って資料をお持ちしました。説明は以上です。あとは皆さまの方で議論をお願いします。ありがとうございます。</p>
渡部委員長	<p>ありがとうございました。ただ今設計事務所さんから説明していただいたが、委員の皆さまからもご意見や今の説明に対する質問等々、ご自身の感想等でもよろしいので、頂ければと思うが。</p>
赤嶺委員	<p>プロポーザルを受けてということなので、図面はまだ必要なかったのかなあと、この図面に縛られそうなので、この図面は後で変わると言っていたが最初から無いものとして我々は考えた方が自由な発想ができるのではないかということが一つ。そして、私が前回からしか出てないので常設展示室が何を展示するのか、多目的室がどのようなスタイルになるのか、このあたりが少し盛り込みすぎて足りない部分が出てくるというふうな感じがありまして。というのも市役所で高校生が勉強しているので、そういった学習スペースとかいうのを図書館の中にもう少し盛り込めないのかとそういうふうな感じがした。</p>
佐藤 (珠) 委員	<p>前回全く発言してなかった。初めて参加される方に意見をいただこうと思って言わなかったが、僕としては当初の計画</p>

の面積数でやってほしかった。その、将来人口が減少するからと面積を減らすというマイナス的な思考ではダメだと。竹田の市議会議員と話す機会があっていろんな施策を聞いてみたが、竹田市は現状の人口で行くと。将来減るとかなんとかは考えてはやらないと。逆に増えることもあるし、いい図書館ができればいい図書館があるからこそ、お嫁に来て人口が増えるところもある。24 時間型といいますか、土日祭日も開ける。そういうところでは、非常に図書館サポーターとかボランティアとかそういう人の活躍が重要である。僕が思うにはまず、建物ありきで作っても人材というか兩人のようになって、今からでも人材育成を始めて一緒になって図書館ができあがった時にそういう人材も育てているというのが理想の形である。仕事柄全国行きましても美術館を回るが、図書館を見せてもらった。逆に、うちの町でこういう図書館を作りたいんだと話したら、まず試されるんです。図書館長から。ユネスコの図書館に基づいてという話をすると快くバックヤードかなんか見せていただいてということになった。一番感じたのは公的な大きな図書館よりも、民間図書館、宗教図書館、そういうところの方が本の数は少ないが、サービスが非常に充実している。来た方にも話を聞いた。大きな公的図書館があって本の数はたくさんあるけれども私はこっちに来ますと。何故かという話である。それともう一つ言わせてもらおうと今人的なことで、今小野さんが一生懸命やっている。他の方々の顔があんまり見えない。だから、次期館長さんになる人も育てあげるといような、次の新しい図書館ができた時に館長さんが人材育成できるような土壌を今からでも作って欲しい。よその図書館に研修に行くなり、ということで次々に。隣の竹田の図書館も建物はそこそこだが、人的資源は非常に良い。人の対応が非常にいい。市議会議員に聞いた時に、大雨が二度降って二度とも雨漏りしたそう。だから図書館も雨漏りがするという事は非常に大変なことだから、そういうのは設計の上からでも考えていただきたい。建物を作る時にボランティアスタッフ、ボランティアサポーターなどそういう人達を育てるような説明を 7 ヶ町村にやるべきで、そういうことも含めてこの設計図が出来上がっていくのではないか。僕は人口減少に合わせて面積を減らすという後ろ向きな考えは全く理解できない。一番心に残ったことを 3 つ言います。



	民間図書館なんですけど、そこは理念を伺ったら、「ありません、できません、知りませんを言いません。ありませんということはお探ししましょうお作りしましょう。できませんは、どうさせていただきますましょう。知りませんは、教えて下さい。聞かせて下さい。その三つで理念は成り立っている。そういう図書館ができれば、「あったらいいな！こんな図書館」からずっと参加してきて、そうなれば素晴らしいなと思う。以上です。
渡部委員長	これはずっと、意見を伺うような感じでよいか。
社会教育課長	なかなか今ここで回答できない部分です。今から作り上げていくような内容ではありますが。
渡部委員長	皆さん申しわけないが、今日は、議論は議論として皆さんの意見を聞きながら、私の考え方も話しながら進めたい。最初のプロポーザルの主旨からいうとコンペではないので、これはかなり自由度の高い物である。一応、ベースになるのはこれをもとに選定したということもあるので、それを踏まえつつ変えられるところは変えるというのがプロポーザルの今までの在り様ではないかと私は個人的には思うが、ちょうど今ここに資料があるが、長崎県立図書館の建設のプロポーザルの委員をしていて議論をしている。やはり、当初の案を踏まえつつ修正するところは修正する。よほどこれは問題があるところは修正して皆さんの意見を聞きながらいいものにしていくというのがプロポーザルの流れのような気がする。そこは、明らかな結果等々があれば指摘頂ければと思うがいかがか。
赤嶺委員	これを基にしてということになると考え方がこだわりそうなので、じゃなくて自由な発想で考えてもいいですよというところを押さえて頂ければそれで結構である。本来のプロポというのはお見合いですので、コンペをやるのであればコンペ料を払うというのが、本来のやり方だと思うので、プロポだと当然無料である。これまでの経費がかかっているだろうがプロポで出された案というのは絶対通さないといけないということではないので、その辺りを委員の皆さんがこだわらなくてもいいですよというのを、皆さんの中で認識して頂ければいいのかなというふうに思う。
渡部委員長	全くその通りなんですけど、大筋としてこういうことできましようというのができているから、あとは、基本ラインはおさえながら明らかに間違った部分があればそういうところは指摘いた

	だいて前に進むしかないと私個人は思うが、それでも白紙の方がよいか。
田原委員	前に進まん。そんなことをしていたら。
赤嶺委員	この図面が出ている以上、これでやるしかないだろうが自由な発想でやって下さいということである。
渡部委員長	<p>基本的な考えは一緒だと思ったので、佐藤委員さんが色々お話ししましたが、資料のあり方について、館員が探すという形は、これまで図書館員の基本的な姿勢である。図書館員としては一つのミッション、図書館マインドを持っていればどんなことがあろうとも資料を探すというのがかつてから言われている。図書館のあり様を学んだ方の意見である。これは人が重要だということに行きつくところであるし、もう一つ言うと準備室のあり様に関しては、まず滋賀県あたりは準備室長を決めて準備室を立ち上げて、その方々が新館の時にはそのままスライドして準備に関わった。長崎の準備室の方々も準備室長をされた方が今は副館長になって準備をしている。そうやって、職員の当事者が今までの経過を踏まえて、そして開館後も図書館のスタッフになっていくというのが一つの流れではあるが、そういうスタイルを取っているのは全体的には少ないかもしれないが、そうしたスタイルをとったところは非常に利用が高いというのは色々な事例を見れば、例えばここには大阪にある図書館がこれも準備室をこしらえて、早い段階からそうしたチームで仕事をしている。私の感想では今後建物を準備したりソフトを準備したりする時は、これは莫大な資料を集めてそれをどうサービス計画に持っていくかというのは非常にタイトなスケジュールの中で責任のある仕事が続きますので兼務ではなかなかできないのが実態ではないか。</p> <p>他の委員さんご意見があればどうぞ。</p>
後藤（綾）委員	色々新しい図書館を作るにあたって、自分達図書館講座を受けた人達は公民館機能を含めた図書館で、市民が活動してどんどん活発に交流もできて、演奏会をしたかったら演奏会をしてという「市民の活動のための図書館」というのを目指しているんですが、多分一般の人は「公民館のすることを何故図書館ですか」と思ってるみたいでケーブルテレビとかで図書館の外でタイル作りとか色々本とは関係ないイベントをしているのを見た方が、それは公民館教室ですることでしょうと言っている

	<p>が、今自分達が目指しているのは資料室も兼ねて公民館機能も兼ねているということを全面にアピールしていかないと、テラス席をいくら作っても中庭を整備しても多分行く人はいない。最初に全面的に打ち出すテーマじゃないがそれを伝えて、皆さんにこういう利用ができますよというアイデアを提示するともっと活発な意見が出ると思うのが一つと、あと具体的なことを言うとお話しの部屋とか多目的室とかは最近の建物はガラス張りになっているが、きれいにカーテンで仕切れない、暗くすることができない建物が多くて、一枚の木でドアみたいにして真っ暗になるところもあるが実は日当たりが良すぎて、空調が効かなくて使っていないというのが今の図書館であったり、他のところでもせっかくプロジェクターとかあるのに使いきれてないというのがあって、そういうところに気を付けて欲しいというのを思い付いた。</p>
渡部委員長	<p>若干補足しますと、公民館機能を図書館に持つのではなくて、図書館法だとかユネスコの公共図書館宣言に、公民館的な機能を図書館に持ちなさいという項目がある。それはちょっと混乱するかもしれないが公民館と図書館は基本的に本を媒体するのと人を媒体するのと違う訳だが、多少似通ったところがあってそれは両方が賑わうというお互いがバッティングしないという例がたくさんあるので、どちらかというところと今までは本の貸出だけというのが 1970 年代から 1990 年代まではそういう図書館像でいくと、課題解決だとかそういうまちづくりに関してやっているのが今の図書館界の動向に馴染まないのご指摘を受けるかもしれないが、今の新しい図書館像というのはそういったものをやっているの、そこは整理して図書館が果たす役割、公民館が果たす役割が果たせてそこで連携が生まれれば解決できることだと今は思う。建物構造に関しては先程も話がでたが、大分県立図書館も雨漏りがした。正面玄関のところで大きなバケツを置いたりして、有名な設計者が作ったとこだがひょっとしたらそういうことがあるかもしれないが、やっぱりこれは意匠デザインに凝ったりすると建物構造に難があったりするので、そこは設計事務所の方々はまずは安全と雨漏りがしないような建物がふさわしいんじゃないか。</p>
後藤（順）委員	<p>私は専門的なことはわからないが、第 4 回から検討委員会に参加したので手紙をいただいた時に、どこかの図書館を見ておか</p>

	<p>ないといけないなと思い竹田の図書館を見てきた。その時にこれは一つの屋根で1階と2階の役目をしていて明るくて天井が高くこれはいいなと思った。そういうことを思ったので、先般これをいただいた時にこれを見て（※別紙資料）中庭を中心に配置していいなあと、これは感想だが。ここに図書館1階と書いてあるが、屋根は一つで1階と2階にするのか。それとも、1階と2階は別々の天井があるような建物か。私はできたら1階と2階を兼ねたような高い天井で竹田の図書館の作り方が明るくていいなと思う。</p>
渡部委員長	<p>竹田の話をする、2階ぐらいの高さを1階までずっと占めている。そういうイメージになるかと尋ねている。</p>
梓設計	<p>実際には構造を含めてこれから決めていくわけですが、プロポーザル段階で書かせてもらっているものでいくと、地元の木材なんかを活用しながらの方法を作ってあげて天井の高い開放的な空間になったらいいなというふうに考えているところです。</p>
渡部委員長	<p>近頃の傾向で行くと、1980年代までの図書館というのは箱型の図書館四角四面の図書館で天井は割合低かった。北欧型の図書館を建築の方々が学び対外型の図書館が出来、屋根が高くなって圧迫感を感じさせない構造が今の主流となっていると思っていただきたい。</p>
渡邊委員	<p>水を差すようですけど、天井が高いというのが見学した時意見が多かったが、これからランニングコストというか管理する時に天井が高ければ高いほど電気をたくさん食うし、電球を代えるのは市の職員が変える訳ですよ。すごく高いはしごで替えるとか色々考えたらやはり、ほどほどの高さ、3m50cm。市役所の1階は高さはそれくらいである。今現状の図書館は2m85cm。さっき行って調べてきた。2m85cmでちょっと圧迫感があるがあれはあれで非常に良かったのが、上に蛍光灯があるが、やはり明るい。非常に効果的な運営費は比較的安くできる非常にそれはそれで良い。あんまり高いのもコストがかかるし低すぎても圧迫感があるし、ちょうど良いのが3m50cm。私たちの身長が1m70cmから80cmくらいなので二倍くらいというのが良いかなと。今のこの部屋は（視聴覚室）3mないくらいではないでしょうか。ちょっと誰か立ってみて下さい。1m70cmくらいでしょ、だからそれに1mくらい足した2m70cmくらい。結局やっぱりそういうのを基にする。あともう一つは、雨漏りがす</p>

	<p>るとかなんとかいうのは、私も建築には随分携わったが屋根があって谷があるとそこから傷んで雨漏りするケースが多い。だから、できるだけ四角っぽい方が良い。それが一つ。三つあるが、常設展示室と企画展示室オープンギャラリーとこういうふうに分けて展示のところはあるが、オープンギャラリーで対応しようとするすると警備の問題がある。結構大事なものがあるので、警備上オープンギャラリーは歴史史料に関しては好ましくない。常設展示と企画展示は分けなくても一体で仕切りを変えながら使えるというふうなやり方でもいいと思うが、ただ面積が 200 m<sup>2</sup>しかないの当初から見ると随分後退したのと、せめて 400 m<sup>2</sup>はほしいなど。なぜならば、豊後大野は展示するものがものすごく多い。県下、南の中では佐伯なんかはそういう展示物とか埋蔵文化財は豊後大野とは比べ物にならないぐらい少ない。まあ殿さまのものは多いが、そうやって見ると豊後大野は相当な面積がないと展示ができないなどそういう気がする。</p>
渡部委員長	<p>ありがとうございます。天井高というのは非常に重要なことで、私は 7m から 8m ぐらいというふうに思っていて、そういう方が圧迫感が無く、利用が高くなったと色んな調査の元でやっていて、天井の電気のもものは下りてくること出来るので今みたいに電気を変えるということはあまり無い状況なのでそういうところも技術的に克服できると思う。後ランニングコストの問題は天井が高いからと言ってもそこはファンを入れたりとかいう工夫をしてランニングコストをクリアできるので、私も従来型の冷暖房の装置から深夜電力を使ったりとかして工夫してかなり軽減できて、最初作ったのは 80 万かかったが 40 万 30 万に落ちたという経過もあったので、そこは技術的なことは、ご要望はご要望として出ささせていただいて、今後議論して最終的にどのような姿がいいかということ判断していただきたい。</p>
後藤（順）委員	<p>天井のことですが、三重の図書館を見て 2 階は別に蛍光灯とか使って電気を使用しているから、竹田（の図書館）のように 1 階と 2 階を一緒にすればどうか。今は三重の図書館は 2 階も 1 階も別々に電気を使っているの、それを一緒にできないのかと。</p>
渡部委員長	<p>そういうご要望を出たものを、方程式ではないが解いていけばいいので、今日は忌憚のないご意見をいただきたい。だからそれは技術的に可能なこともあるし、それこそ設計者の方に繋が</p>

	<p>ると思いますし、屋根の問題も単純明快で昔みたいに切妻だったものにしないものを何層もやってしまうと雨漏りもするが、覆う屋根の場合単純明快に部屋割りが色々な形にできるというのは、設計のプロの、腕の見せどころですのでそこは議論の中で解決できるんじゃないか。</p>
吉岡委員	<p>図書館については色々議論がされているが、実はこの会議は図書館及び資料館建設に関する検討委員会で資料館についてももっと議論しなければならないと思うが、この送られてきた事前資料を見ると図書館の中の展示室みたいに見えて図書館しか出てない。このままだと図書館の展示室になってしまう。確か面積が 2,200 m<sup>2</sup>と 400 m<sup>2</sup>と聞いた記憶があるがこの資料をみると 200 m<sup>2</sup>くらいしかない。これだと今の緒方の歴史民俗資料館とあんまり変わらない面積しかない。今はただでさえ狭くてもっと充実させる必要があると言われていて、ジオパークの審査の時から言われているが、そういうことが全然反映できていないということになるので基本的には大きい方は図書館になるかもしれないが、あくまでも図書館と資料館を併設したものだという形で、もちろん市民の方にも利用して頂くのが大前提ですが、市外の人が資料館を見に来るといような、もっと資料館を前面に出すような形にすべきではないか。あと、資料館というか展示室についても展示内容、これももっともって時間をかけて何をどういうふうに見せるのか、どれくらいお金をかけるんだとか、かなり時間をかけて検討が必要だと思う。この委員会だけではなくて、早く準備室を立ち上げなければならない。どこの図書館も同じだが準備室を立ち上げる場合は、資料館と図書館別々にやらないといつまでたっても資料館部分が図書館の付属品になってしまう。そうならないようにやっていただきたい。以上です。</p>
渡部委員長	<p>先程展示のことも渡邊委員から出ましたが、オープンギャラリーというものと中のものとを区分をされると最初の説明にあったがそれをお聞きになってないから、前の話でいくとポップな展示、手軽に出来る展示はオープンギャラリーでやって貴重品は中でやって外で展示をして、中で貴重品を扱う展示をしてと、当初の説明にあったと思う。吉岡委員のご指摘のように歴民の機能をこちらに持ってこようとする確かに狭くなるが、図書館や文化財センターの機能もあるのでそこの兼ね合いも見な</p>

	<p>がら、適当な規模はどんなものなのかということは致命的なことがあれば改善していくことは必要である。他に意見があるか。</p>
渡邊委員	<p>展示のスペースが 400 m<sup>2</sup>になった時に、当初佐伯は 600 m<sup>2</sup>あると私は言ったがそれは準備スペースを入れて 600 m<sup>2</sup>だったらしい。展示そのものは 350 m<sup>2</sup>から 400 m<sup>2</sup>ぐらい佐伯はある。だから、その面積くらはせめて欲しい。400 m<sup>2</sup>からどんどん引いていって展示スペースが 200 m<sup>2</sup>になるというのは当初の予定から見るとだいぶ、後退したなという気がするのでは是非 400 m<sup>2</sup>だけは確保してほしい。</p>
渡部委員長	<p>これは一般的には、今の段階で展示基本計画というのが出されて、それで建物にドッキングするというのが普通で、何を展示するという展示ストーリーがあって豊後大野の資料館としてあるべき姿として設計という形になっていくが、それが今逆にになっているのでこんなことになっているのである。ということになると事務局の仕事は膨大なものになる。それは準備されるものとして御理解頂かないと半端なことではできない。私の経験からすると今の段階で、同時進行で進めないこれは成就できないので走りながら考えながらやるという方向しかない。絶対的なキャパシティについては、なんでその 400 m<sup>2</sup>が必要なのかということを説明できるものを提示しないと、臼杵とか佐伯に比べて狭い低いとかいう問題ではなかなか理解できないんじゃないかと思うが。他の意見はないか。</p>
吉永委員	<p>私も思っていたが、この計画を見ると私もこれだけを見ると緒方町の歴史民俗資料館というのがちゃんとあって、その中で時々幾つかテーマ的にここに持ってきてというのがあって展示をして元は向こうにあるというようなイメージしかこの図書館の中の、資料館の部分のイメージがなかったのも、そうではなくて緒方の資料館ではなくて機能を全てこちらに持ってくるというのであれば、色んな人が言われているようなキャパとか機能をきちっと持っていわゆる付録とかいうのではなくてこまごました図書館と文化財を示す資料館というのは面積的にはあれかもしれませんが、大きさ的にはこれくらいのもをつけて頂かないと、これを見るとほんと資料館が残っているのかなと思うくらいのそんな扱いのような感じがする。やはり今ある緒方の既存の不動産とかあいうものを置く、それから埋蔵文化財とかいうものをお持ちになるとなれば公開収蔵庫とかあつ</p>

	<p>ても、やはりここにくれば豊後大野市の歴史かこう一望できるとかそういうスペースにするとすればかなり弱いという感じがするので、そのためにも今委員長が言われたように何をどう展示したいのかという、だからこれだけの面積がいるんだという強く文化財サイドからも早くから主張していくべきであると思う。</p>
渡部委員長	<p>ありがとうございます。吉永委員は県教委でそういうことをされていたので大変お詳しいと思うが、やはり普通であれば展示計画があって展示設計があって展示物によって建物に影響されますので何を展示してどういうふうに見せたいのかということが先にないと、後で天井高を低いから上げようというのはなかなか難しいので、今に至ってはそれこそ同時進行でうまくいくようなことを準備しないといけない。他の皆さん何か意見があればどうぞ。</p>
藤内委員	<p>図書館の方に話が戻るのですが、テラス席があって開放的というのは分かるが、先程赤嶺委員さんが言われたように学習室というのがなんで無いのか、時代の流れなのか。今の豊後大野市の図書館で学習室の利用率はすごく高い。利用者のドル箱的な夏休みになるとそれこそ子どもさんも来るし、大分市のホルトホールなんかは夕方になると 100 人くらい並んでいて、なんで並んでいるんならうと思ったら学習室の整理券を待っているという状態でしているらしい。そうやって考えるとテラス席はたくさんあって憩いの場はたくさんあるのかもしれないが、そういう学力を養う場所っていうのはどうしてないのかなってちょっと思ったが、まあプロポーザルですからあれですけど。</p>
渡部委員長	<p>これには考え方がありまして、1970 年代から図書館は学習するところではなくて、本を読むところという前提があって学習室を減らしてきた。図書館なので、受験生が沢山来たところで町民や市民のみなさんが赤ちゃんからお年寄りまで本を親しむ空間でなくて、受験生が占拠したら入りづらいという意識が働いて学習室を少なくした。しかしそれを両方うまくってテラス席の前に小さな椅子があるがパソコンや何やらを置いたりしてフリーに学習室として館内全体にそういう学習できるような配慮をしていると私は読み取った。私は、豊後大野市は公民館でも自由に学習できているので学習環境としては他の自治体よりもかなり確保できている。そこはちゃんと図書館界で学習室を</p>



	減らした傾向にあったのを、学習室を復活するかその理由付けも考えた上で配置をされるのがベストである。
渡邊委員	学習室はさっき委員さんが言われたように相当利用がある。今の図書館の利用を後退させないようにしたいというはある。だから、やっぱり大きな流れからいくと学習室は縮小の傾向にあるのかもしれないが、この町においては既に利用者がいるということである程度は準備をしないといけないと私は思う。
渡部委員長	それは運営面で解決できるので、グループ学習室だとかそういうものに学生達が学習するのは放課後と土日が中心なのでその対応をフレキシブルに考えていけば、例えばキャレルという相手に邪魔されない読書席等々を置いていけば確保できるんじゃないかと思う。これは設計の方々に両方がうまく折り合うような設計を考えて欲しい。そういう思いも設計者に伝えれば解決頂ける。
佐藤（珠）委員	最初に「成長する図書館」というお話があったが、このエリアの中でどういう部分がどういうふうに成長するのかっていうのと、成長するっていうのは開館当日から育つ。初日から育ち具合を情報公開するというか共有する。話が元に戻りますけれどもソフト面も一緒になって進まないとか開館してからしばらく成長しないでは困るので、開館当日から成長する。成長エリアみたいなのはどこなのかなというのと、あと個人の意見だと音楽を聴きながら本を読みたいという願望がありまして。例えば「ノルウエーの森」という音楽を聴きながら村上春樹の「ノルウエーの森」を読みたいというような関連した書籍と音楽がくっつくということはあるので、そういうスペースは今見たところは無い。
渡部委員長	ありがとうございます。多良見図書館を見学された方は分かると思うがそういうコーナーがたくさんあった。そういうことを意識して実はこれは設計者さんがエリア区分をした。今度は使う側がもっと具体的な詳細なものをもう外枠は変えられないならどのような展開をするか成長するためのコーナーをどう構築するかというプランを立てなきゃいけない。
佐藤（珠）委員	成長する図書館とは面積が増えていく図書館ではないのか。
渡部委員長	もちろんそうです。加えて「学びによって用途が広がっていく」ということもあるから、成長するという部分は先程配慮してい

	<p>ただいたと聞いたが、それは次の拡張性を考えた時に余力があるかということに繋がる。これも、設計者さんには本日議論があったことを踏まえて頂ければと思う。それとソフトの面は普通、準備室ができれば、開館から三年間分の期間の企画を考えている。開館の時には三年間分の企画の交渉があってやってくるのが普通。そういうことまで考えると建物を建てた時がゴールではなくて開館のオープンテープカットをした時には三年間分の次なる展開が見えるくらいの準備を、さっきの展示と一緒にやっておかないといけないというのが普通の準備の在り方である。ほかには。</p>
赤嶺委員	<p>常設展示室というのは、今の歴史民俗資料館のものを展示するコーナーなのか。</p>
渡部委員長	<p>私の理解では、今の歴史民俗資料館のものを展示するコーナーではなくて、これから何をやるのかをちゃんと考えた上で豊後大野市の資料館にふさわしい展示を展示ストーリーとともに提案し考えていくということ。ひょっとしたら、別途として資料館の展示計画を策定する委員会なり準備期間が必要かもしれない。</p>
赤嶺委員	<p>私自身も先程吉永先生のおっしゃった豊後大野市の歴史を知るといふ場が少ないなと思っていたので、市民がそういうことを勉強する施設なりがあった方がいいので、この右側の（※別紙平面図）文化財センターというのがそれに該当するのか、要は市民のアイデンティティーはどこにあるのかというようなところを知るといふのと、できれば近代のことも含めた人っていうものに焦点を当てた、それぞれの町の非常に功績のあった人、例えば緒方三郎惟栄とか清川だと加藤長史だとか千歳は“こかんどうたい”だとか色々いる。そういう人達の資料がそこに行けば分かるようなコーナーがあるとよい。あと自分自身が「あったらいいな、こんな図書館」に出てないので。中の部分で遊園地のようなところ、子どもが行ってワクワクする、例えば先進地で貝殻のようなブース、隠れ家のようなコーナーとか、認知症の読み聞かせができるような、健康作りにも資するような、色々ワクワクする感じのものがあると行きやすい。</p>
渡部委員長	<p>ワクワクするのはお話室というのがあったが、それは今後そういうものにしていきたいと設計者にお伝えすれば、そういうしつらえができて少なくとも多良見のようにお金があればできる</p>

	<p>と思うが。これは今後意見を踏まえながら設計者さんがどう作っていくかということになる。常設展示の部分で行くと豊後大野の人物を知るといのは展示計画の中に委員会とかそういう中で練っていただいて、必要な面積と必要な物を予算の限界もあるが、早急にたてて文化財センターとの住み分けも明確にしながらやらないとちょっと時間がないかなと私の頭の中では考えている。他の方もご意見がありましたらどうぞ。</p>
吉永委員	<p>繰り返しますけど、何を展示するのかをきちっと考えておかないと、出来上がった後こういう環境では、何かの企画展とかでよそから文化財を借りてきて必要に応じて展示するという時にもう展示させられませんよということになりかねない。もちろんそんなことが国宝とか借りてきて展示できるような施設だとはこの予算では到底無理ですからできないが、大分の県立美術館なんかも色んな形で作られたんでしょけど、そこによその県から持ってきて展示する事は課長の許可が得られるかといったらなかなかもらえない。あれだけの建物でも光が当たりすぎるとか地下に駐車場があるとかすぐ横に厨房があって火の始末が心配だとか色んなことでああいうところでもハードルが高くて難しいということがあります。この場合もそこまでは無いにしても、今豊後大野市にどういった貴重なものがあって展示できるものはどんなものかという事を少なくとも豊後大野市の宝を展示するのに特に問題のないようなそういう施設。空調にしても光にしても、なおすところの虫であったりカビであったり、そういう物をどこまで制御できるかそういったことも作る時から最初からやっておかないと後で問題が起こっても大変なので。再三言いますように同時進行でどういったものがあって、どういうふうに表示し、どういうものがあるから収蔵庫があるんだということはやっぱり今からやっけないと難しいんじゃないか。</p>
渡部委員長	<p>ごもっともです。ここまで来て時間がないのは明らかですが、私がモデルにしている平塚というところの博物館がある。ここは準備期間に8年かけた。基本計画を練り、そこに合った人材を募集してそこからスタートした。そういうことを言っているととても時間が足りないので、10年くらいはかかるので、おしりに火がついた状況ですので、できることと出来ないことを精査して今の状況の中で可能な限りでベストを尽くして展示計画</p>

	なりをたてていただいてこの建物の中にふさわしいものを考えていく。
吉岡委員	時間が無いっておっしゃるんですが、私は去年の委員会の時から展示資料館部門に関してはもっと議論し検討しないといけないと言っていたのになんか図書館の後回しになっていて全然前回も時間が取れなかった。今後についても進めないといけないが、事務局にお聞きしたいがもっと具体的にいつどのようなメンバーでやるのかという事をプランとしてできているのかできてないのかその辺を確認させていただきたい。
事務局	今の吉岡委員の質問に回答します。プランについては、事務局はこの委員会で揉んで計画書の中に盛り込んで頂くという考えで進んできたところです。時間的余裕、大変申し訳ありませんが平成 32 年 3 月 31 日までに完成させなければならないという現状において平成 28 年 5 月から始まってきたプランであるので、我々のやり方等に不備があれば修正していきたいと考えていますが、この委員会の中で議論して頂くということで進んでいるという認識です。具体的なプランについては次回以降早急に職員目線で特に文化財係が中心になってどういうものを展示していきたいかということや、どういうことを皆さんに知っていただき勉強していただきたいという部分をピックアップして、全てを展示するというのは不可能ではないかと思うので、限られた範囲の中で優先順位をつけてこれは常設とか、この部分については企画展示でやろうとか左側の埋蔵文化財センターにあります公開収蔵庫でみて頂くような流れで考えていたところです。本来であれば渡部委員長が仰っていたように何年もかけて一から積み上げて行くこと、これが正論ではないかと思うが期限があるので、まさに走りながらのという形になります。吉岡委員が言われたように前回まで 9 回検討委員会を開催しましたが、ほとんど資料館部分の議論がないまま終わってしまいました。これも我々としては遺憾に思うところですが、後戻りもできないので、プランとして、その要綱の中にこの前お配りした資料の中にも書いてありますが、小委員会を設けることができるというふうに盛り込んでいます。当初この会が始まった時に事務局としてはそのことも考えたが、やはりこのメンバーを二つに分けて図書館と資料館の委員に分けてしまうとなかなか横の連絡が取りにくくなるかと思い、事務局としてはこの一

	<p>本でやっていこうかと考えたんですが、そういった小委員会をして展示部分だけを議論する会も設けることができる仕組みになっています。ただし、いかんせん時間がありません。今回このプランを出させていただいたが、これとは別に特定の委員さんにはお集まりいただき、こちらが素案（たたき台）を考えて議論して頂く時間を取らせていただけるのであるならばそちらの方向で進むこともできます。ただし、1 月末までには計画を固めて設計に入らなければちょっと間に合わないという状況です。その部分はお含みいただきたいと考えています。</p>
渡部委員長	<p>私は予算と時間があればもっと時間をかけたいのは山々だが、これは事務局側から最終日程が決められているので今の段階でこれをやろうとすると大急ぎでやらなきゃいけないという事情はお察しいただきたい。吉岡委員さんが心配なのももっともだが、私は事務局の方に図書館の事務局の方と資料館の事務局の方にたたき台を早急に作っていただいてそれを（事務局の）小野さんに調整してもらってというのが一番いい。それが準備室である。この伊賀上野市やくまとい等々も準備室があって担当のセクションの方がたたき台を作って委員会にかけるという形でやってきたので、何もかも社会教育課がやるというのは無理なのでそこはご理解いただいて小委員会という話もあるのでそうした方向でいかがか。今の状況では全体でやっても図書館と資料館がごっちゃになってフォーカスできないので限られた時間の中でどこまでやれるか見えてないが精一杯やって頂くしかない。</p>
吉岡委員	<p>基本的にそれで結構だと思う。小委員会だとかワーキンググループだとか実際に手を動かすメンバーを集めてやらないと多分できないと思う。まあ実際は、歴史民俗資料館あるわけなので（私含め）そこのメンバーが中心で出来るかと思う。</p>
赤嶺委員	<p>今小委員会と言うのは厳しいんじゃないかと思うので、文化財審議委員会とか文化財により詳しい方の会合でもって、展示についてとどういふものを示してほしいとかいうことを議論してもらわないと我々は分からない。この中になんか詳しい方がいらっしゃるが私はよく分からないというのがあるので、そういった専門性を持った方々に議論をしていただくと。もう一つは歴史民俗資料館のオープンを少し延ばすことはできないのか。特例債は図書館に集中させて歴史民俗資料館については他の財</p>

	源でやるとか、あまり急ぎ過ぎると悔いが残るようなものになるのではないか。
渡部委員長	これは私から言っても批判を受けるかもしれないが、ものの研究者が研究されていることと展示をするということは要素が違う。どういうふうに見せるかという豊後大野を理解される方と展示をされる方のチームでないこれはまた資料館として成り立たない。そこを十分考えた形の委員構成を求められる。
赤嶺委員	展示設計を専門にするとこがあるので、そういうところに（お願いすれば）
渡部委員長	展示設計は丹青社とか乃村工藝社とかトータルメディアとか 5 社くらい有数なところはあるが、そこに基を出すのは地元のことを研究した方がこういうもので、図面に起こすのではなくて文章でどういう表現をするのかとこれくらいのものかこれ以上のものになる。資料館基本展示計画書というのを策定しないと展示はできない。
渡邊委員	展示のスペースでよその町のことも言ったが、実は緒方と三重の旧中央公民館の中に展示して今は、皆さんは見られない状況にあるが、展示していて既に 400 点近くある。今あるものが既に 400 点くらいある。大体それくらいは最低いる。あと中身については並行してどんなものを展示するのは歴史民俗資料館の担当の方にお任せしたらいい。どういうくらいの安全なものをつくるかとか、面積的には最低ということだがその辺をもう少しつめないといけないと思う。
渡部委員長	本来はそういうものが決まってから面積が決まってくるが、最初から面積が決まっているから図書館の面積も色んな基準が決まっているからどう折り合っていくかというのは非常に厳しいところだが、いずれにしても展示の基本計画書とか図書館においてはサービス計画書、先程子どもの諸々とか読書とか勉強の環境はどうなのかとか詳細な設計を色んなものを参考にしながら同時進行で進めさせていただいて最終的にはこの委員会で決めて行くということによいか。いずれにしてもこれは乱暴な話ということをご理解いただきたい。場合によっては 3、4 年かけてやっていることを数か月でやる訳だからこれは非常に乱暴な話であるということをご認識していただきたい。今までの議論でいくとそういう状況だがやらなきゃいけないのが実態であ

	る。
田原副委員長	ずっと聞いていたが、最終的な日にちは決まっているのだから、渡部委員長が言ったように、事務局や専門の方にそれぞれ図書館機能と文化財機能についての素案を出していただいて、その素案について具体的に意見を述べる。訂正するなら訂正すると。今のこのようなやり方では今日で 2 回目が終わる。全部で 5 回しかないので進まないのではないかと心配する。
渡部委員長	そのためにも私は事務局の方々には他の仕事を辞めてでもこの仕事に集中する環境を作らないととてもできないと思う。結局は時間切れという形になるので、どなたも経験が無いかもしいないがものすごい仕事量でそれから考えると専従で 3 か月くらいこれにかかりっきりにしなないといけない分量で、兼務でやるようなことではない。時間がないのでそこはご理解いただいて、もし必要であれば私が教育長にお伝えして環境を整えることも必要かもしれないがいかがか。
工藤委員	さっきから図面をみながらどういう立体的な建物になるのか、常設展示とか企画展示室とかを聞いていたが 200 m <sup>2</sup> じゃ狭い、400 m <sup>2</sup> は欲しい。佐伯は 600 m <sup>2</sup> ってなった時に、広ければそれだけ資料館の職員の方の負担になるんじゃないかと、狭ければ展示がうまくできないとか思うところがあるんだろうが、私たちにはそれが想像できない、どのくらいの広さでどういうふうにとか。だからここでは歴史民俗資料館の高野さんたちが声を上げるべきではないかと思うがいかがか。
高野委員 (文化財係長)	色々ありがとうございます。実は問題点がいくつかあってこういうものが展示できるんじゃないかと幾つかまとめて書いたのはあるが、いつ出そうかなというところだった。上司のチェックを受けてないものが世に出回るのも良くないかなと。あくまでも個人的に考えているものとしてお示しできる参考資料としては手元にある。こういう物件がありますと一点一点は挙げてないが羅列したものがあある。埋蔵文化財センターの現状の組織の問題とかを書いてきているのはあるが、今それを短く読めというのは苦痛な話。10 ページあるので。
渡部委員長	だからそれはちゃんとオーソライズしてこういう席にちゃんと出していいようなものとして資料として次回に持って来て頂くということでどうか。でないとな個人で、内部で煮詰まってないものが出るといけないから。

高野係長	それで良い。
渡部委員長	できれば田原副委員長がおっしゃっているように、もうここまで来ているから、これに当てはめてそういう構想があるということプランニングして頂ければ前に進むかと思うので。これは図書館についても同じである。お二人でたたき台を作っていただいて次回の委員会に具体的なものを出して頂ければと思うがいかがか。
高野委員 (文化財係長)	展示計画が必要であるという事だが、展示計画に至る為の第一歩の資料みたいにしかまだ出来ていない。それを次回お示しすると
渡部委員長	時間が足りないのは重々承知なので大きなことから小さなことまで、ラフでもいいからプランを出して頂ければそれを肉付けをしたり了承したりした方が早いので、それが出来てるのを待っていると3か月4か月かかるので、次回までにそれに書いたものや肉付けしたものを出示してもらえばそれで話ができるんじゃないかと思うがいかがか。まあこれはどういう体制か分からないが、普通その熊取の図書館とかは普通(事務局の)小野さんではなくて図書館の方が提案して今度はやる場である。だから、小野さんは全体的な調整で二つをどう調整するか。高野さんが展示計画を出して、市役所の中のオーソライズされたものを次回の会等々に出して頂ければより具体的になる。これは段取り的にどうか、難しいのか。
後藤(綾) 委員	次回っていうのは時間がすごくもったいないので、次回までにどこか組み込んで集まれる人だけ集まって…。
渡部委員長	それはそれで良いが、この委員会としては次回までにということで、他の方々は小委員会で議論をしようと、でも全体の中ではこれを進めていきたいというスタンスなのでそこは工夫して頂ければと思う。
吉永委員	(文化財係長の)高野さんとか忙しいから申し訳ないが、私たちはできればこの図面という常設展示室、企画展示室、公開収蔵庫という文化財センターにあるこれくらいの絵であるということではなくて自分達はこういったような案のようなものを、こういうような展示を考えているからこのスペースでも十分できているのか、それともこういうことがしたいとかこういうことをするためには状態が無理だからもっともっと広い部屋があるんだという考えなのかその辺のことは今日は言えないにし



	ても、次回にはそういうことも含めた本当の正式な何か年計画のきちっとしたものでなくても良いのでこの中でどうなのかということ、担当者の人達の考えを是非聞かせてほしい。
渡部委員長	他の委員さんは何かないか。
渡邊委員	基本的には今のような流れで、今日のような意見を踏まえたものを次回までに詰めて大きな枠を作っていただきたい。今日プロポーザル案の平面図を見て若干よく分からない部分が幾つかある。例えば、多目的室とかジオパークマイスターハウス、それとか子どもエリアがものすごく広い。今の図書館と同じくらいの広さがある。それと同じようなちょっと分かりにくい部分があるので、そこの説明を。どう考えたらいいのか。その詰めを図書館の関係の方がするにしても分からないところはきちんと確認してからやった方がいい。
渡部委員長	そこは赤嶺委員さんが言うところのプロポーザル案なので、私も子どもエリアは子どもの全体の出版量から考えるととても広い。これだったら、何万冊にもなる。児童書が一流で全国的に高い評価でやっているところもそんなには多くない。そこは建築士さんがプランを出したところなので、これをどう現場に取り入れて次回以降に取り入れていただきたいというのが今までの主旨ですので、そこは現場目線での今後のプランを出してもらえば豊後大野にふさわしいものができあがる。その中で渡邊委員さんは図書館絡みだったら図書館協議会委員とかで話を練っていけば話がスムーズになっていくのではないかな。どうか。そうでないとなかなか進まない。お二人の担当者は仕事を抱えていてこれもやんなきゃいけないという事情があってとてもじゃないけどやりこなせない分量なので、事務局側がご配慮いただいて。私が長崎に居た時は二年間準備室として専従でやった。滋賀県も二年間。図書館スタッフ資料館スタッフが別にいて準備室を持ってそういう組織でやらないとなかなかやりこなせない。これを一年、二年やるわけでは無くて数か月計画が整うまで他の仕事を排除していただいて、かかりっきりでやれる状況でないと私は高野さんや太田さんの立場ではとてもやれない。そこはご理解いただきたい。ほかの皆さんどうか。集中してやらないとこれは豊後大野の一大事業。当事者の方々には重責を感じられる仕事かもしれないが、今までの蓄積等を踏まえて現場に行って豊後大野の事情に詳しいのは現場の方々なのでタイ

	<p>トなスケジュールだがそこは乗り切ってもらって。ということ  でいろいろな意見がでたが、結局はそこに行きつく。最初のい  ろいろな㎡数だとか天井高の問題等々も出された。そういうこ  とも踏まえて今日出された意見等々を展示計画や今後の運営計  画につながるようなプランを詳細なものでなくても、限られた  時間の中で皆さんに説明できるようなものをお出しできるよ  うなものを私共で議論するというのでどうか。そうでないとこ  こでずっとやっても日が暮れる。前に進むにはそういう形でい  きたいとお願いしたい。(了承いただいたということで) ありが  とうございます。新図書館が持つ機能とその配置について皆さ  んから意見をきいたところだが、せっかく作るので天井高の問  題とか意見が分かれたりしている。それぞれがどういう根拠で  どういうものがこの豊後大野にふさわしいのか、私は究極を言  うと、資料館図書館は使われないと宝の持ち腐れになる。作っ  ても使われぬのが目に見えているのなら税金の無駄使いにな  る。天井高にしても自分が調査をして快適度を考えての数値だ  った。そういう部分で根拠を示していきながら皆さんに納得い  く形で最終的に了解していただきたい。皆さんのご協力も事務  局を支えるつもりで情報提供してほしい。よろしいか(委員了  承)。というところで話がまとまったかまとまらないか分からな  いが、方向性は目に見えてきたと思うので当事者の方々にラフ  であるけど次回までには出していただければ。</p>
事務局	<p>次回までにたたき台となるようなものをお示しできるように準  備します。その予定で考えていました。ただ、展示設計の発注  までは教育委員会としては考えてなかった。今梓設計さんにお  願いしている業務の中でお願いすると、先程言われたような展  示設計の専門の業者をお願いするという形ではなくて、我々  の中でたたき台をお示しし、これは時間と金銭的な部分もある  ので、皆さんのご意見をお腹いっぱい聞きたいが時間的な部分、  財政的な部分があるので、ただ皆さんに分かってもらうよう  に進める形でいきたいと考えています。</p>
渡部委員長	<p>私もそれに大賛成だが、丹青社や乃村工藝社があるがそれは商  業ディスプレイから来ていて、見せ方は非常に良いが、心がこ  もってないというか、これは暴言かもしれないが、私がイメ  ージしているのは前原市にある資料館。手作りで職員の方が作っ  た。逆にディスプレイの会社の方からこれは商売になると言わ</p>

	<p>れたくらいのものでできている。身内でできる範囲のプランと梓設計さんのノウハウもあるので共同作業で作っていけばよそにも負けないものができる。</p> <p>ということで議事（１）のところはよいか。かなり意見は出た。</p> <p>次に議事（２）意見交換とあるが。</p>
事務局	<p>今までのもので意見交換ということではよろしいでしょうか。</p>
渡部委員長	<p>皆さんいろいろな意見があるということは今日で分かったと思うが、一点は事務局の方には無理を言うかもしれないがそうした形で準備してもらって、たいいていのことは事務局で市を挙げて協力して頂ければ、かなりの加重労働となるのでよろしくお願ひしたい。では、その他ワークショップについては事務局から。</p>
事務局	<p>時間も迫っているので、４．その他について一括して説明します。（１）市民ワークショップについてだが、別紙 A4 横の資料についてです。市民ワークショップの参加者を募集しますということで 12 月 2 日と 3 日に 3 会場で行います。千歳保健センター、神楽会館、エイトピアおおので開催しようと考えています。3 か所にした理由は先程申しあげたが、広く市民の方々の意見を聞く場、中学生や高校生の意見も聞きたいという思いもあるので、市民ワークショップとして募集したいと考えています。中身はご覧の通りです。図書館、資料館、各公民館にて応募できホームページの特設サイトも準備します。周知方法は市報やケーブルテレビでの告知、各学校への文書送付、ホームページにて広く周知を図りたいと思います。次は今後の日程についてです。次回は 11 月 4 日土曜日 15 時から市役所 1 階保健センターにて、第 4 回は 11 月 17 日、第 5 回は 12 月 15 日、予定としては 12 月 25 日に教育委員会へ答申を頂くという方向で考えています。</p> <p>（３）第 3 回検討委員会についてだが、次回の検討委員会は資料館について議論したいです。たたき台を作りながら 11 月 4 日に提案して皆さんの意見をはかりたいと思います。</p>
渡部委員長	<p>12 月 15 日の予定がちょっとわからないので、もう少し待つてほしい。</p>
事務局	<p>了解しました。では、次回の検討委員会で調整します。</p>

後藤（綾） 委員	さっき質問すればよかったが、平面図にあるブラウジングとはどんな感じが聴きたい。
渡部委員長	ロビーのようなもの。自由にそこにくつろげるという。先程赤嶺委員さんにも言ったが、そこは大枠の形は大体了解していただいて、各コーナーのボリュームだとか名称だとかは色々あるので、一旦事務局にお返しして詰めていただきたい。もし、ブラウジングはどうかマガジンコーナーはどうか別の用語説明があってもいい。そういうこともお願いしたい。
社会教育 課長	委員長大変ありがとうございました。事務局として資料等の準備ができていないところがありまして、皆さまには大変ご迷惑をお掛けしました。次回の検討委員会までにそれぞれの担当で資料を揃えつつ次回の検討委員会に臨みたいと思います。大変ありがとうございました。最後に閉会のことばを田原福委員長からお願いします。
田原 副委員長	皆さま大変お疲れ様でした。今日は大変活発な意見交換ができたと思う。先程から話が出ているが、答申までには日にちが限られている。日数に余裕がないので各委員さんは十分踏まえたうえで次回までの検討委員会にご参加いただきたい。お疲れ様でした。